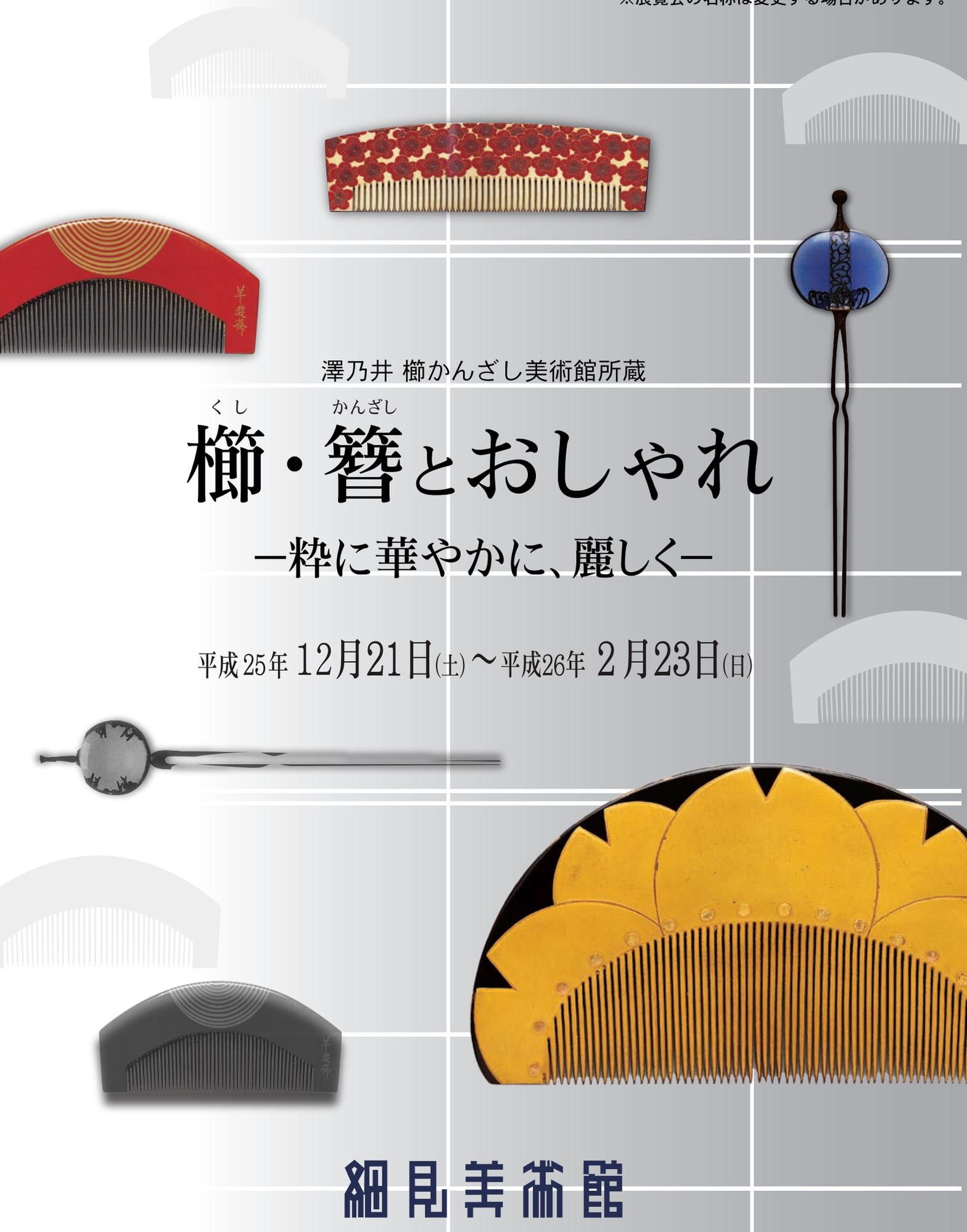


※展覧会の名称は変更する場合があります。



澤乃井 櫛かんざし美術館所蔵

くし かんざし  
櫛・簪とおしゃれ

—粹に華やかに、麗しく—

平成25年 12月21日(土)～平成26年 2月23日(日)

細見美術館

澤乃井 櫛かんざし美術館所蔵

くし かんざし  
櫛・簪とおしゃれ  
—粋に華やかに、麗しく—

平成25年12月21日(土)～平成26年2月23日(日)

本展は、澤乃井櫛かんざし美術館(東京都青梅市)所蔵の江戸から昭和までの櫛かんざしを中心に約300点を展示し、日本人が培ってきた美意識の有り様、装飾工芸の技巧、そしてその変遷を紹介するものです。同時にポーラ文化研究所ご所蔵の浮世絵、また細見美術館所蔵の近世絵画・工芸品を展示し、その華やかな世界をご覧頂ける構成となります。

展示作品はそれぞれ木、象牙、べっ甲、金銀、ガラス、水晶、珊瑚など様々な素材で作られ、装飾のモチーフも四季の植物、風景、物語、吉祥など多種多様で、日本人のデザインと技術力が凝縮された粋で華やかな世界をお楽しみ頂けます。

当時の人々の"おしゃれ"を楽しむ心が、時代を超えて現代の女性達を粋に華やかな美の世界へいざなうことでしょう。

- [主催] 細見美術館 京都新聞  
[監修] 村田孝子氏(ポーラ文化研究所)  
[特別協力] 澤乃井 櫛かんざし美術館  
[協力] ポーラ文化研究所  
[休館日] 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)  
年末年始休館: 12月25日(水)～1月2日(木)  
※12月23日(祝)・24日(火)は開館  
[開館時間] 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分前まで)  
[入館料] 一般1,000円(800円) 学生800円(600円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
[会場] 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3  
TEL 075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

お問合せ先: 広報担当 三宅 由紀  
TEL/075-752-5555 FAX/075-752-5955  
E-MAIL/[kouhou@emuseum.or.jp](mailto:kouhou@emuseum.or.jp)



## 展示構成

江戸時代、男性が印籠を持ち歩いていたように、女性の代表的な装身具と言えば櫛や簪などの髪飾りであろう。

それまでは垂髪で髪飾りと呼ばれるようなものはほとんど無かったが、江戸時代中期頃になると、髪は結いあげられ、様々な髪飾りが登場するようになった。

黒髪の美しさを演出する髪を梳く櫛、束ねた髪を留める簪は、髪型の変化と共に、実用的なものから装飾的なものが好まれるようになり、多くの流行が生まれた。

本展では5つの章に分けて、江戸から昭和にかけて女性のおしゃれの中心となった櫛や簪を浮世絵などと共に様々な角度から紹介していく。

## 在銘の名品 一匠たちの手技と意匠一

江戸時代後期になると、櫛などにも絵画や工芸品のように作家の銘が見られるようになる。代々続く蒔絵師の名匠などが、それまでの実用的用途としての制作から、より粋で洒落たものを作りその腕を振るって競うようになる。

中でも、酒井抱一の下絵を多く工芸品に制作した原羊遊斎の銘が入った作品は人気があった。



桜狩嵌装象牙櫛



數柑子蒔絵櫛

## こだわりの型と材質 —より美しく、華やかに—

江戸時代後半は櫛や簪の材質は、木、象牙、鼈甲、ガラスなどバリエーションが多く、また蒔絵、柳川、螺鈿といった様々な装飾も施されていた。

髪型の流行に併せ、櫛、簪の形や装飾にもその時々女性の好みや如実に反映されている。



秋草象牙櫛



菊蒔絵螺鈿団扇形鼈甲櫛

## 季節を彩る装身具 —美と技と女ごころ—

古来、日本人は季節感を大事にし、その美しさを和歌に詠み、貴族や武家に伝わる絵画や工芸品には多くの四季の移ろいを表現したものが残されている。

江戸時代中期以降、櫛や簪といった小さな装身具にも、そうした四季折々の景色が多くみられるようになった。

小さな飾りに繊細な季節の花々が表される一方で、新春のモチーフである凧を取り入れたり、桜をデフォルメしたデザインなど、見る者をハッとさせる構図の作品も作られるようになった。



桜花蒔絵櫛



桜花象牙櫛・簪・笄

## 美しき文様 —憧れとトレンド—

櫛や簪の小さな画面には、吉祥文をはじめ、物語や名所、家紋に地紋、そして異国趣味のモチーフなど様々な文様が見られる。こうした個性的な文様には女性たちの好みも反映され、当時の流行となった。



業平東下り時絵象牙櫛



南蛮人猿回し時絵象牙櫛

## 近代の髪飾り —伝統と進化—

明治時代以降、髪型や服装の変化に伴って櫛や簪の需要は減っていった。そうした中でも流行や伝統を引き継ぎ、新たな材質も登場し、新しい風を吹き込んだ作品が生まれるようになる。



洋髪用鼈甲花簪二種



草花覆輪鼈甲櫛・簪

## 基本情報・お問合せ

澤乃井 櫛かんざし美術館所蔵

櫛・簪とおしゃれ—粋に華やかに、麗しく—

平成25年 12月21日(土)～平成26年 2月23日(日)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は5時30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)

年末年始休館: 12月25日(水)～1月2日(木)

※12月23日(祝)・24日(火)は開館

入館料 一般1,000円(800円) 学生800円(600円)

※( )内は20名以上の団体料金

会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

TEL075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

出品作品点数 約300点

お問合せ先: 広報担当 三宅 由紀

TEL/ 075-752-5555 FAX/ 075-752-5955

E-MAIL/ [kouhou@emuseum.or.jp](mailto:kouhou@emuseum.or.jp)

